

平成 27 年度 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (紀北町) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 10 月 15 日 (木) 16 時 00 分～17 時 00 分

2. 対談場所

紀北町役場 2 階 201 会議室
(北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島 769-1)

3. 対談市町名

紀北町 (紀北町長 尾上 壽一)

4. 対談項目

- 1 国道 422 号線の整備について
- 2 鍛冶屋又官行造林地における流木対策について
- 3 防災対策の強化のための地域減災力強化推進補助金の充実

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

本日は尾上町長におかれましては、お時間頂戴いたしましてありがとうございます。まずは先般 10 月 11 日に紀北町の合併 10 周年の記念式典が盛大に執り行われました事、心からお祝いを申し上げます。私自身も出席をさせていただき予定でございましたけれども、あいにくサミットに関する総理の現地視察が急きょ入ってしまいました。参加をできずに大変申し訳なく思っているところでもありますけれども、盛大に開催されたという報告を聞いておりますので、心からお喜びを申し上げます。併せまして、この 10 周年を記念して、やはり一体感をというようなことで、今度 11 月 3 日に町民大運動会を開催されるというようなことでもあります。今回、和歌山国体で三重県は 16 年ぶりに 20 位台を獲得しました。特に皇后杯は去年が 38 位だったんですけれど 23 位ということで、女子が躍進している中、これからスポーツのゴールデンイヤーを迎えますので、そういう形で町民の皆さんがスポーツに親しんでいただく、そういう機会も併せて作っていただくということは大変有意義なのではないかと思っております。

それから、先般 6 月にオープンした始神テラスにつきましても、大変好調に推移をしていると聞いております。私もオープニングの時にお邪魔をさせてい

ただきましたけれども、本当に素晴らしい施設でありますし、あそこならではの食べ物等があつて、非常に魅力を感じる、そういうような場であると思つておりました。本当に7月も8月も非常に入込客数も順調であつたというふうに聞いておりますので、これからもますます人々の心を引き付けるそういう始神テラスであつてほしいと思ひますし、近い名前の三重テラスとも連携をして、また一緒にPRもしていきたいと思ひているところであります。

それからいくつか、県の関係でご報告差し上げますと、まずここに銚子川の水がありますけれども、私先般9月28日にニューヨークに行つてまいりましたけれども、ニューヨークで三重県の魅力をプレゼンテーションしました。最初の動画の中で、銚子川のこの美しい写真を出して、非常にニューヨークの皆さんからも感嘆の声が漏れる、そういう素晴らしい状況でありました。そのように活用させていただいたというご報告と、それからこの11月以降にかけまして、日本で大変有名なキッザニアという、甲子園と品川・豊洲という所で子供の就業体験プログラムをやっている場所がある訳なんですけれども、今回これを全国で初めて都道府県単位でキャラバンをして就業体験をしてもらいます。そのキッザニアのブランドを使って展開していくわけですが、その1ヶ所として紀北町でやらせていただくということで地元の皆さんに様々ご協力をいただくことになっております。どうかよろしくお願ひを申し上げたいと思ひます。

それから私の方からの最後になりますけれども、恒例の大人気の長島港年末港市、その最終日、12月28日にはちょうど伊勢志摩サミット開催150日前という区切りのいい日を迎えることとなります。我々「〇〇日ウィーク」という形でPRを強化しているところで、港市においてもご協力をいただくということで聞いております。なにとぞサミットの機運醸成に向けてのご協力よろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。それではたいへん私の方が長くなつてしまいましたけれども、今日この後も有意義な時間としたいと思ひますので、何卒よろしくお願ひします。ありがとうございます。

紀北町長

知事、本当に今日は紀北町にお越しいただきまして誠にありがとうございます。今知事からもご紹介があつたように、10月11日の10周年記念式典では、知事のご祝辞をいただきまして石垣副知事をはじめ、各部長の皆さん等たくさんの職員の方にもご参加いただきまして誠にありがとうございました。本当にそういうことで、なんとか10周年記念式典をやり遂げられたなと思つております。そして今日はサミット等で大変忙しい中を紀北町を訪れていただきました。本当に紀北町は今様々な課題に取り組んで行つているところですが、県の皆さんにご相談したり、ご協力を頂いたりして本当に積極的に前進しようとしてい

るところでございます。今情報等もいただいて、紀北町にも色々と陽を当てていただきまして、知事の方からご配慮いただいておりますことを、本当に厚く御礼を申し上げます。そういった中で、今知事キツザニアのお話をされました。先だって新聞で三重まるごと自然体験促進事業というのを読まさせていただいて、我々も銚子川流域、それから熊野古道、便石山を結んでトレッキングコースをエリアとして展開できないかということで、実は昨日便石山の方へ 3 時間ぐらいかかって歩いて行ったんです。そういったこともして、できれば県の皆さんと連携を取りながら知事の推し進める所をご一緒にさせていただきたいなと思っておりますので、ご配慮の方よろしく願いいたします。

それと、この 1 対 1 対談は、毎年知事に来ていただいている訳なんですけれど、本当に、素直にこの辺の言葉を使って、うれしきってくなあという部分がございます。それは今まで宙ぶらりんであったり、自分たちの中で悶々としていた課題が知事に 1 対 1 対談でお話しさせていただくことによって、本当にどうなるのかなと思っていたのが前に進むんですね。そういうことからすると、職員の方がどうのこうのというより、やはり知事の 1 対 1 対談にかける思いが、職員の皆さんに伝わるのかなと思っております。そういった意味ではもちろんできないものはできないで返していただければいいですし、そうやっていただいておりますが、まずは着実に進めていただいているということです。これは、今日の課題の中でお礼を申し上げながら取り上げていきたいんですが、今日も 3 つほどお願い事項というんですか、挙げさせていただいております。県の財政が厳しいというお話の新聞を読んだばかりなんで、タイミング的に厳しい時に 1 対 1 になってしまったなという思いはあるんですが、そういうことも承知の上でちょっとお願い事をさせていただかなければならないと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

(2) 対 談

1 国道 422 号線の整備について

紀北町長

よろしく申し上げます。まず 422 号ということなんですが、南北縦貫道の期成同盟会の方でいつもご要望させていただいております。このものの仕上げとかそういったことについては期成同盟会の方でお話しさせていただきたいと思っておりますので、そこは今日もお願いすることなんですが、422 号はこの長島地区から赤羽地区を結ぶ基幹道路で、大変重要な道路でございます。しかしながら、まだ結構幅員が狭いとか、見通しが悪いとか、色々ございますので、こういったものを要望したいというお話です。これ実はお願いをするのが今日

で 3 回目なんです。鍛冶屋又の山林が崩壊して大型車両が通行する等そういう問題で、待避所を作ってくださいよというお願いがまずスタートでした。それから 26 年にはそういうこともしていただいているお礼をかねて、再度広げてくださいというお話をさせていただきました。本当に、これもお礼のひとつなんですけれど、私たちの想像以上に、県の皆さんは熱心に取り組んでいただきまして、そのスピード、それから自分たちが思っていなかったところまで、本当に拡幅していただいているような感じになっております。そういった意味では地域の皆さん、本当に前に進めていただいているありがたいというお話がまずございます。地域住民の皆さんの観点からしても、喜んでいるということなんです。今日、新たにまたなぜこれを課題にしたかという、地域の皆さんには確かに喜んでいただいた。しかし紀北町としてどうなのかという観点からお話しさせていただきたいなと思って、この 1 番目にさせていただきました。

紀北町の観点は、こちらに地図がございますが、一番上がこれがいわゆる 422 号の地図でございます。そして、2 番目が線で囲ったところを拡大したところがございます。この赤羽川と大きな字で書いてあるところに赤羽公園、それから老人ホームとか書いてありますね、この一帯が平地みたいになっています。この一帯が紀北町の中で浸水域外なんです。我々にとって、それだけ貴重な地域なんです。今までは先ほど申し上げたように地域の方の安全安心それから利便をもって話をさせていただいていたんですが、これは町づくりという観点から今回はお話しさせていただきます。3.11 が起きまして、これから我々としてはこの浸水域外は大変貴重な場所であると考えます。例えば中長期的に何か移転していきましよう、町づくりを考えていくという中で、この位置づけがものすごく重要です。この辺りは農用地なんですけれども土地が結構広くあります。そういった中で、ここへ中長期的に色々な施策、安全安心を必要とする施設を建てたりするには大変貴重な所なんです。そういうものを持って来ようとする、やはりより一層の交通インフラが必要です。たとえそこが浸水域外であっても、その浸水域外が基本的に町の中心やそういったものを持って行けるかというのはやはり交通インフラ、そういったものが無いと、やはりうまくいかないよというお話があります。まずはどこまでこの段階でしゃべればいいのか、1 回目でしゃべればいいのか分かりませんが、我々としては今度は町づくりという大きな観点、中長期的な大きな観点からして、この 422 号線を今より一層、今も十分やっていただいているんですが、それをより一層安全安心で利便のある道にさせていただいて、将来的にこの赤羽地区で安全安心な事業を、もちろん利便が優先されるのがやはり今のところ作られなければいけないと思うんですが、そういった観点からより広く・安全な道づくりをお願いしたいというのが今日の 1 点目です。

知 事

はい、ありがとうございます。今町長からこの浸水域外としての重要性についてお話しをいただきました。まずこのおっしゃっていただいた区間の所の関係で、島原地内の所は平成 25 年度から道路啓開基地の整備に合わせて約 320m 区間の整備に着手をさせていただきまして、平成 27 年度は道路改良工事を進めて、平成 28 年度にここを供用する予定であります。それから、もう少しこの赤羽地区から長島地区全体の所で申し上げますと、平成 24 年度からは十須地内において、640m 区間の整備やって、平成 26 年度に 320m 供用したところですが、残る区間の整備に着手し、今年度は 50m 区間の用地買収を行うというようなことでもありますけれども、いずれもこのおっしゃっていただいた赤羽・長島の地区のこの区間の所、ここについては今事業実施中の所も含めて大変厳しい予算状況でありますけれども、早期に供用できるように進めていきたいというふうに思っております。

紀北町長

今そういうお話をいただいて、先ほどもおっしゃっていただいたように私の方もちょっと資料を持っているんですけど、本当に予算的にも色々かけていただいて、十須地区にも島原地区にもそういった啓開基地も合わせて行っていただいて、電信柱もちょっと移設していただいています。もう後は古いのをはずして舗装してもらおうという感じで、一番ネックの所だった曲がっているところ、子供たち交通安全の対策事業もやっていただいていますし、他にも金額的には相当やっていただいているんです。結局、紀伊長島インターの所、今までは 422 号には堤防の所を通過していったわけなんですけれど、赤い線の下の方このインターへの非常に利便のいい広いバイパスができたんです。ですから我々としては、この長島地区、東も西もそうなんですけれど、そこと結ぶインターからの線をしっかり、例えば色々なことをして、例えばちょっと大型のマイクロとかバスとか走らそうとした時に、より安全安心な形でないと、やはり安全安心な施設も作りにくいということです。地元の人々の観点からすればもう十分ありがたいと。これしかないんです。このありがたいを今度は町づくりの観点からありがたいにさせていただきたいなという話です。

知 事

そうですね、より利便性を高めたり、後は様々な防災対応とか集客交流とかという観点でのということをおっしゃっていただいたというふうに感じております。今島原の所をやらせていただいているように、僕がちょっとこのどの辺

りを優先的に取り組むべきか等、道路の状況が詳しくわからないんですけれども、町長おっしゃっていただいたのは大変重要な視点だと思います。この区間の所でもどこからやり始めるのが一番いいのかというのが、多分それぞれあると思いますから、ぜひ地元の建設事務所等と、常日頃からやっていただいていると思いますけれども、ご議論いただいて、特にここが優先順位が高いんだよということでお示しをしていただいたりしてください。後は今正に町長がおっしゃっていただいた町づくりという観点からは、今なんというんですかね、国への道路の要望とか何かでも、ストック効果というのが流行りで出てきています。こういう効果が見込まれる等、そういうのも一緒に教えていただくと、我々も色々な優先順位をつけていく時に説明しやすいと思いますので、今町長おっしゃっていただいたような大きな町づくりの観点からの、こういう効果を見込んでこうであると、こういう順番がいいのではないかということで、また色々協議をさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

紀北町長

ありがとうございます。基本的にここの赤羽の老人ホームは、赤羽公園の所で国体の少年女子のソフトボールと、グラウンドゴルフが行われるんです。そういった意味では、今拡幅していただいているところでインターから直接降りられると思います。今までは対向できない状態だったのがずいぶん対向できるような形になってきたんですが、何分にも蛇行している所、視界の悪いところはまだまだ依然ございます。それから今申し上げた老人ホームから上の方へ、大原とかあるんですが、この辺も県の方ではこちらの建設事務所の方では色々配慮していただいて、「ここを次やっていくよ」というお話もいただいているんです。しかし、基本的に蛇行しているような状態の道路でございますので、我々としては赤羽公園の近辺まで、国体までの間に少しでも訪れていただいた人が快適に安全に競技場まで行っていただけるような雰囲気を作っていきたいなと思います。そういうこともやっていただきながら、抜本的に町づくりに寄与していただけるような道路にさせていただければありがたいなというように思います。

知事

ありがとうございます。おっしゃっていただいた通り、うちも国への色々な道路の要望等も、国体をひとつの区切りにしながらやっていますし、伊勢とかの陸上競技場周辺とかも国体をひとつの目途に色々な道路の事業もやっている所あります。色々な、当然優先順位付け等ありますけれども、国体ということについては、大変重要なポイントでありますので、具体的な協議を色々させて

いただければと思いますのでよろしく申し上げます。

紀北町長

ありがとうございます。

2 鍛冶屋又官行造林地における流木対策について

紀北町長

それでは 2 点目の方に入らせていただきます。これも写真の方をちょっと置かせていただいているんですが、鍛冶屋又は 23 年、紀伊半島の豪雨で大変大きな崩落が発生しました。その中で、県の方でも早速谷止工 2 基作っていただいて、大変ありがたいなと思っていただけですが、濁水はなかなか難しい部分がございます。ありがたいなと思っているときにこの台風 15 号が来まして、作っていただいたのが埋まってしまうぐらいになってしまいました。国の方もスリットダムを作っていただいて、流木を受け止めて土砂や水だけ流すというものが、流木が詰まってそれへ土が詰まってもう堰堤の様になってしましまして、それを結局超えて流木が長島港へ大変多く入ってきたんです。そういうことから、県におかれましては、早速あくる日から撤去にかかっていたいただきましたが、160 トンという流木が港内に流れ込みまして、大変多くの漁師の方にもご迷惑を、一番最後のこの写真の所にありますように、これが浜の方へズラーっと並んでしまうような状態でした。ただ、県の方はさっそく撤去していただいたんですけども、この流木、上流からの方をどうやって防ぐか。また、長島港へ入らないような工夫はできないのかという問題もあります。港湾ということで、本当に県の方はしっかりやっけていただいているんですが、漁民の方からは港湾内に入らないような方法は無いのかなというような提案もございます。でも、我々としては、町のレベルでこういった大自然に向かっていくというのはなかなか難しいなと思いますので、県の方も今やっていただいてこの後も色々計画していただいているんです。それは本当にありがたいなと思うので、今日はこの件に関して特に国の方に何とかできないのかということをおっしゃっていただきたいと思っています。ちょうど台風 15 号の後に三重森林管理署へお伺いさせていただいて、この埋まったスリットダムは、すぐに流木と土砂を撤去してもらおうということになって、すぐ事業として出させていただきました。基本的にはもう少し、国の方で官行造林、向かいには国有林野もございますし、何とか我々小さな町の思いとしては無しに、知事の方からこの流木対策を根本的には難しいというのは森林研究所の最初の時の視察でもわかっているんですが、何とか漁民の方の気持ちを考えると今のままではというところがありま

すので、ちょっとその辺をお願いしたいなと思っています。

知 事

ありがとうございます。これ本当に紀伊半島大水害の後、町長からこの鍛冶屋又の官行造林の深層崩壊の話聞いて、国に要望し、三者協議をしてという、大変私も強く印象に残っているところでもあります。自分自身がみえ森と緑の県民税を導入し、県民の皆さんにご負担いただいてでも、災害に強い森づくりをやらなければならないと思ったきっかけのひとつでもあります。やはりこういう極めて深刻な深層崩壊と、この長島港、この三重県の水産業を支えてくれているところへの漁業の影響等も含めまして、非常に強い思いを持ったところで、私にとっても非常に心に残っている場所でもあります。

すでに色々な治山ダム、国が施工 2 基やったりうちも 4 基の内 2 基完成させて、また今年度新たに着手し、またもう 1 個後にやっていきたいと思っておりますけれども、今町長おっしゃっていただいたように官行造林地のそもそもの森林整備とか、スリットダムをもうちょっと維持管理をしっかり頻繁かつ適切にやって、この流木がしっかり止まって、下に少しでも流れてこないようにするべきということについては、おっしゃっていただいた通り国に対して私どもの方からも共にちゃんと働きかけをしていきたいと思っております。特にここは本当に、最初は町長におっしゃっていただいて国に紀伊半島大水害の後要望に行った時も色々管理者が分かれているので国もそうそう当事者意識を持っていなかったところでありましたけれども、町長をはじめ地元の皆さんの熱意で、動かしたという場でもあります。ぜひまた国に対して、県としても要望をしっかりとしていきたいというふうに思います。

紀北町長

ありがとうございます。これは本当に我々も大阪の森林局も行かせていただいて、その後知事が本当に熱心にやっていただいて、それで直ちに動いてくれる形になったので、これも知事の行動力だと思います。そういう中で、こちらの方の写真にもございます。こういう崩壊上部の写真があるんですが、26 年では真ん中の方にでっぱりがございまして、これが台風 15 号で流れていますよね。そういうことからすると、同じような角度で撮ってますのでまだまだ土砂が安定していないという状況なんです。この後の第 3 の項目でもお話しさせていただきたいと思ってるんですが、基本的に、土砂の崩落がまだ続いています。ということは下流に流れてくるよというお話になってきます。難しい状況なんですけど、まず今知事がおっしゃっていただいた維持管理、スリットダムでも木が詰まって常に土砂が下りてきますので、結局流木をちゃんと取ってくれなき

や一緒の話になりますので、それらをやはりこまめに取っていただくという必要があるかと思えます。山の奥なので経費もかかるし、大変なのはわかるんですが、しかし放りっぱなしじゃあ普通の堰堤になって流木が止まらないという話になります。この辺もやはり我々もこれから三重の森林管理署の方へお話しさせていただきたいと思えます。この間の15号の後に行かせていただいたのもそういうお話もさせていただいたんですが、県の方から鍛冶屋又に光を当ててくれよと、しっかり見ていてくれよというお話をお願いしたいなと思えます。

知 事

様々な場面で、秋も農林水産省に色々議論・要望するときもありますけれども、様々な場面で今町長がおっしゃっていただいたように鍛冶屋又にしっかり光を当てろというようなことについて、国にもしっかりと積極的に要望を話していきたいというように思えます。

紀北町長

ありがとうございます。

追加1 三浦・矢口漁港海岸保全施設整備事業に関する重点配分について

紀北町長

この項目3がちょっと色々と複雑なので、まずひとつ先にお礼をというお話をさせていただきます。三浦と矢口漁港で今堤防を作っていただいております。紀北町ふたつのところを同時に進めていただいているということで、大変厳しい中を予算付けもしていただいておりますので、これも地域の悲願なので、これがこうやって進んでいること自体が地域の皆さんありがたいなと感じております。という中で、ちょっと1点言いにくいんですけど、堤防ができつつあってぽっかり1ヶ所空いている場所がある。これはやはり予算付けの関係でしょうが、例えば樋門なんかは一時期にしなければならぬ話があるんです。そういう時にちょっとそういう国の経済対策か何かあったような時に、こちらに重点配分いただくとありがたい。三浦と、矢口も今ちょっと空いているんです、ちょうど樋門の所が。そういう意味からすると、その辺りも一括で工事が施工できるようなちょっとお願いもできないかなと思えます。これは地元の方と色々お話しさせて事務所の方と話をさせていただかなくてはいけない事なんですけれども、地元の方には、これは本当に何十年来の悲願のような形だったんです。ですからこうやって本当に重点配分していただいていることで、こういったことを言えることではないんですけど、知事と会うこともめったにないという

ことで、お話をさせていただきます。まずこれが本当のお礼の部分です。

知 事

ありがとうございます。特にこの三浦と矢口の漁港の工事は、長寿命化とか耐震化とか色々こういう漁港施設・海岸保全施設は重要で、平成 27 年度の予算配分で国からの配分が少なかったので、しっかり必要な予算額を 28 年度は頼むぞという要望をこれまでもしてまいりましたけれど、引き続き予算確保に向けてと思っています。空いているところはその 28 年度の予算が付けばやっていくという、我々としての 28 年度要求要望区間になっているんだと思いますので、しっかり予算が確保できるように国への働きかけ等予算確保に努めていきたいと思っています。

紀北町長

ありがとうございます。そこからトン袋で詰めていたり、河川の所が空きっぱなしの所があります。でも他は順調に進めていただいておりますし、本当にご配慮いただいております。そういうのを本当に感謝する次第なんですけど、3 点目に行かせていただきます。

3 防災対策の強化のための地域減災力強化推進補助金の充実

紀北町長

3 点目なんですけど、地域減災力強化推進補助金の話なんですけど、28 年度、少し見直しがあるように伺っているところです。そういう中、我々としては本当にこの補助金を活用させていただきまして、紀北町では小さな手摺 1 本つけるのも含めて 100 ヶ所整備させていただきました。そういう意味からすると、この補助金を大変有意義に活用させていただいておりますし、我々としては本当にやってこられたのはこの補助金があるが故だと思っております。何か見直しの中でどうなるのか、私も今読み取ることはできないんですけど、こういった大変予算が厳しい中、強化推進補助金、できれば一定の大枠をいただきたいというのが全体論でございます。その中で、今紀北町は一昨年からは災害監視カメラの話をしています。こういったものも補助金の中で使えるような形に、今まで枠がなかったと思っております。そうしていただければありがたいかなというような思いがございます。そういったのがまず一定枠を確保して配分いただきたいというのがまず 1 つめということで。

知 事

はい、ありがとうございます。まず全体論からということで、地域減災力強化推進補助金、これはご案内の方とご案内じゃない方がいらっしゃると思うので説明しますと、東日本大震災を受けて、平成23年度～27年度の5年間に渡りまして、特に地震・津波対策、津波からの避難対策というものについて市町でやっていただくものの半分を県で一緒に負担させていただこうというものです。そのためには一定のメニューを設けてということで、やらせて来ていただいたわけでありませけれども、そういう意味では津波避難対策ということについては5年間やらせていただいて、完全にすべての市町において、完全というところまでは行っていないとは思いますが一定の役割を果たしてきているのかなと思っています。来年度につきましても、この補助金はなるべくしっかり財源確保できるようにしたいと思っておりますが、市町の皆様のご要望等をよく踏まえたいので、このメニューの見直し、これから取り組んでいきたいと思っております。基本的なメニューの方向性としては、平成23年度に補助金できた時には、まだ南海トラフ特別措置法というのができていなかったもので、ずっと特に津波避難対策を中心にやってまいりました。南海トラフ特別措置法というのは昨年できまして、そこから津波避難対策の部分については国の特別措置法に基づく津波の特別強化地域、紀北町も入っているわけですがけれども、特別強化地域においては、補助率等のかき上げが行われる国の制度もできてきましたので、そういうのを活用できるところは活用していただきつつ、県としては近年の土砂災害とか風水害対策とかあるいは孤立地域の支援とかあるいは避難所の避難した後の環境整備とかそういうところにメニューの中心を持っていければということで、現在議論をしているところであります。いずれにしても予算議論の中で議論していこうと思っておりますが、いずれにしても全体の額としては確保できるように努力していきたいと思っております。

紀北町長

ありがとうございます。そういう中、我々としては実情を知ってもらおうという意味でお話しさせていただきたいと思うんですが、実は緊急要望というのを平成23年の5月に自主防災会から上げていただきました。その中でうちはこういう補助金を使わせていただいて、できないものとか県・国のものを除いて95%、ほぼ整備ができてまいりました。しかし多くの海岸線沿いばかりを抱えるうちのような町は、多くの避難路を作らないと逃げる場所が無いということです。我々は以前もお話しさせていただいたように、避難路の入り口から500mで円を描いてすべての住居が入るように、そしてできればそれが重なるように。そうすることによって避難経路が、家とかそういうのが潰れたりして通れなかった

らあっちへ行けこっちへ行けということができるようになってきております。そういう中で 100 ヶ所補助金なんかをいただいて色々なことで、本当に手摺 1 本の所もあるんです。板を架けたようなところもあるんですが、させていただいたんで、ある意味本当に命を救うだけの避難路に今なっている部分もあります。国の事業補助の申請基準に合うものというのは、じゃあ全てかというところほとんど合わないものが多いです。それと今、今年度第二ステージということで中州地区という所に避難できる場所、外へ避難しがたい場所に津波タワーを今建てているんです。そういったものはできるんですよ。それで 2/3 とかかさ上げがあったんですけど、結局は配分が 2/3 なかったよ、半分ですよという状況です。これはかさ上げしていただけるだけありがたいんで、それはそれありがたいんですが、そういう中で、本当は命を救う所から、ちょっとでも優しい避難路へ転換ということもあるんです。今例えばこういう急な登り方をしていますよね、これをもう少し緩くしてあげたいとか避難の構成の部分をもっと少し広くしてあげたいとかいうのがあります。一定の我々のような海を抱える所ではエンドレスのようなところがありますので、今後どうなるかはまた別としても、そういったところができるような感覚も支援していただきたいと思うんです。その中で我々県のしていただいたことでありがたかったのは沿岸地域避難路等の緊急整備治山事業がございました。あれが本当に地域住民の方にもものすごく評判がいいとかありがたいという話なんです。ですからこの補助金がなくなったにしても、そういった地域の沿岸地域の部分、ああいったものをやはり予算化してあげていただければなと思うんです。

知 事

そうですね。全体的な方針としては今申し上げたようなところにメニューの中心を持って行くわけでありましてけれども、とはいえ 29 市町の中で色々な進捗の差、あるいは温度差、みたいなものもあるでしょうし、あるいは必要性の差みたいなものもあるでしょうから、これから最終的には予算議論の中で今おっしゃっていただいたような津波避難路の部分を残すのか残さないのか、残すならどういうのを残すのか等ですね、そういう議論をいずれにしてもしっかりやっていきたいというふうに思っています。一方で、先ほどおっしゃっていただいた国のメニューで合わないような小規模な避難路等そういう部分の整備についても、県の予算だけではなくてせつかく南海トラフ特別措置法ができたので、多くの地域のひとりでも多くの命を救っていくための制度であった方がいいと思います。そういう意味では国に対しても、そういう既存の制度の要件緩和等、大きい避難路だけ作るのではなくて、地域の実情に合わせて単に道路の広さ等だけではなくて、重要度とか緊急度とか必要性が地域によってそれぞれ違うと

思いますので、それら要件緩和の話であるとか、あるいは場合によっては社会資本整備総合交付金の中で使えそうな事業等もあります。そういう国の事業の精査、あるいは要件緩和の要望、こういうものについても積極的に取り組んでいきたいと思います。

紀北町長

ありがとうございます。本当に色々と配慮の方をさせていただいた補助メニューがありがとうございますので、我々として一生懸命活用しながら、町民の命を守っていききたいなと思います。そういう中で、先ほどもちょっと申し上げたんですけれど、監視カメラなんですけれど、これ結構経費がかかるんです。LANを引くとかそういったものがかかりますので、この辺りも、例えば2級河川赤羽川、それから銚子川がございます。それから先ほど知事がおっしゃった土砂災害、これも大きな位置づけだと思います。津波の際の港湾、皆さんに地震が来たら逃げなさいと、閉める暇もない時は皆消防団も職員も逃げなさいという中で、今皆、目視に頼っているんです。そういうことからすると、カメラが必要です。しかし設置しようとする、私も紀宝町で見せていただいたんですけれど、結構立派な施設で相当かかるなと感じたんです。でも今消防団が、我々便ノ山地区が毎回、この後につながるんですが土砂の堆積の話もちょっとさせていただきたいと思うんですけれど、毎回避難勧告のような感じで出さなければいけないんです。それを台風が一番大変な時に消防団に監視で張り付けてもらっているんです。区長さんとか。ですからそれはちょっといかがかなというのもあってこの2~3年前からそういうことでカメラの事を検討させていただいています。そうすると河川敷でカメラの設置は県の許可を頂かなければいけないと、そういうご理解もいただきたいなという思いです。今もちろん水位計はあるんですけれど、やはり水の出方には土地土地の特色があるんです。谷の。この谷から水が出すぎると、山が危ないよとか、ここが越水しそうだよとか。特にうちは堤防や山に囲まれて土地が低いんです。山からの水だけで浸水してくるわけなんです。そういったときに、ここに監視カメラがあったらそういう危ない中本当に監視役が張り付かなくても良くなります。いいんじゃないかなという中でも必要経費が大きな金額なんでこの減災力強化推進補助金なんかも使えるようにさせていただいて、そうするとやっぱり一定の枠がいただきたい。まだ来年度に取り組めるとかそういうところまで煮詰まっていらないんですけれど、そういうお願いです。

知事

そうですね、監視カメラについては、いずれにしても色々な市町の状況等も

確認をさせていただきたいと思います。こういう地域減災力強化推進補助金の枠組みみたいなところでやるのがいいのか、一方で土砂災害の関係なんかはこれから土砂災害警戒区域の指定に必要な基礎調査を平成31年までということと5年間前倒ししてやっていく中で、県土整備部の中でもこのハードだけではなくてソフト対策も、そういう情報提供も含めた様々なソフト対策もしっかりやらなくてはいけないということで、ソフト対策についても色々検討・協議をしているというふうに聞いております。私もそう認識しておりまして、そういう情報提供のあり方みたいなのも、ソフト対策の部分で議論しているところでもあります。いずれにしても紀北町の方でそういう監視カメラについて大変関心が高いというようなことは十分理解いたしましたので、今後制度を色々、どういうふうに県がどういう役割を果たしていくべきなのか、そういうことも含めて、ハードだけではなくてソフト対策のものとしてもどう考えていくのかということとでしっかり議論していきたいと思います。

追加2 銚子川及び船津川の河口閉塞の解消および銚子川の堆積土砂の撤去について

紀北町長

はい、ありがとうございます。時間も残り少ないですけど、ここでちょっとまたお願いします。河川の避難勧告を出さなくてはいけないというひとつの要因はやはり砂利の堆積だと思うんです。それで今砂利の堆積の撤去方針で、県の方も色々やっていたらいいんですが、先ほど銚子川ももちろん今ほぼ手付かずのような形です。それはもう砂利捨て場が無かったというようなこともありますし、赤羽川は鍛冶屋又の上流からどんどん流れてくるという状態です。我々といましては、これもまた予算なんですけど、例えば砂利を捨てる場所が出てきたら、これは津波とかではなくて、毎年の心配の種なので、その辺りの部分の予算もキープしていただけたら、本当にこんなこと言うと問題かも知れませんが、他の部分の予算を削ってでも砂利堆積等の撤去にかかる予算は付けていただきたい。これはうちだけではなし知事も十分認識していただいた上でこれをやっていただいて、今回こちらの事務所の方でも、ありがたいことに公募方式も取っていただいて色々やっていただいております。そういうところで砂利捨て場の候補地のため、我々も今森林組合とかそういった山へ行く方、そういった皆さんにも色々声かけしているんです。だからそういうところがもし出てきたら、厳しい中とはよくわかるんですが、そういう予算化もお願いしたいなというのが、今日時間的には最後のお願いになろうかと、たくさん申し上げて申し訳ございません。

知 事

ありがとうございます。来年度大変予算厳しい中であるんですけども、先般経営方針という、来年度28年度どういうことに重点的に取り組むんですかというのを議会の方にお示しをさせていただいたわけでありまして。そこで重点取り組みというもののの中のひとつに、激化する豪雨等の自然災害への緊急的な対応というのをハードを中心にしているところです。そこにおいては河川の堆積土砂の撤去というのも入ってくるように考えておりますので、その額がどれぐらいになるかとか箇所をどうするかというのはこれから予算議論していきます。箇所については今の残土処分地との関係で町さんとうちの建設事務所で協議をさせていただいて順番を決めていくということになると思いますけれども、やはりこの1対1対談で生まれてきた対策のひとつが堆積土砂の撤去であったと思います。一番最初にやらせていただいた時に尾上町長からも言っていて、そして平成24年度の予算に堆積土砂の撤去、これを特別枠みたいなものを作って、やったと思っています。ですので、この紀北町のみならず、県内多くの市町において、この堆積土砂の撤去の重要性というのはお声もいただいておりますし、実際にそれによって水位が下がって被害を免れたというケースもこれまで県内でも、この前の台風においてもありました。来年度もその河川の堆積土砂の撤去の有無については、重点取り組みの中で取り組めるように、しっかり予算の確保に向けても努力をしていきたいというふうに思います。

紀北町長

はい、ありがとうございます。本当に前向きに色々とお話今日は聞かせていただきました。そういう中、後ろにもね、銚子川等色々自然が今日パネルにさせていただいています。我々はやはり歴史自然文化というんですか、自然を大事にして環境を守りながらやっていかなければいけないという中で、知事がおっしゃったまるごと自然体験促進事業、これなんかをうちが、本当になんにでも手を挙げてでもやりたいよという気分です。知事がそういった観点・感性で見つめていただくということは大変ありがたい話です。銚子川、この間もNHKの「金とく」で45分番組ですか、やっていただいて大変人気がありました。⇒25年7月のBS朝日の2時間番組でもやっていただいて、今はもう撮れないし車を止めるところも無いぐらいの人気です。それで別個のところで建設事務所とか話はして、色々ご無理も言っているところです。そういうことからするとやはり、この自然を活かしながらどうやって紀北町を訪れていただくかということでは、やはり知事がこうやって光を当てていただいている自然体験事業、我々としても積極的にやっていきたいと考えています。それとスポーツも推進して

いきたい。やはり健康がしっかり守らなくてはならないということでうちは「ちよい減らし+10 (プラステン)」というのを今ケースワークをやっています。そういうことで、健康が笑顔を作り、幸せの大元になるということでさせていただいています。それもやはりきっかけはスポーツ等がいいんじゃないかなということでご配慮いただいて、国体の少年女子のソフトボール・グランドゴルフ等の会場をこちらへ回していただきました。本当に三重県のやろうとしていることに、我々も一緒に乗らせていただいて、しっかりと連携をとらせていただいでさせていただきたいと思いますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

知 事

ありがとうございます。特に自然体験のところは、三重まるごと自然体験や観光で「Asoview!」という日本最大の体験予約サイトと県単位としては初めてうちが提携しました。その「Asoview!」というサイトに三重県の特集が載っているんですけども、もちろん銚子川とかキャンプ inn 海山とかそういうのも全部登録をさせていただいています。4月からだったか今年からだったか、去年の同じような形でやった自然体験の特集の売り上げが3倍になりました。これはやっぱりうちが観光等においては県全体としてもやはり入込客数も大事だけでも、やはりお金を落としてもらって、それで地域にお金が回って成果ですので、そのためには滞在時間を長くしてもらう必要があります。そうすると滞在時間を長くするためのメニューがないと駄目だろうと思います。10時に民宿や旅館やホテルが終わって、そのままチェックアウトして帰られるんじゃないくて、もう1アクティビティやって、自然体験やって、そこでもお金を落としてもらい、お昼ご飯もそこで食べてもらってお金を落としてもらって帰ってもらうという方が、いいんじゃないかという観点からスタートしまして、今好調に推移をしています。それから、モンベルというアウトドアの会社の辰野代表も、本当にシーカヤックとかカヤック、川遊びとかカヌーというのに「これほど適した場所は無い」というふうにおっしゃっていただくほど紀北町含めて三重県の評価が非常に、専門家の皆さんの間では高いので、ぜひそういうことをこれからもしっかり売り出していきたいというふうに思います。それから、後なんと言っても国体の部分について、あるいはスポーツの部分について、これからスポーツ合宿等も含めてよりPRをしていきたいというふうに思っておりますので、地元との受け入れ態勢等、ぜひご協力いただければと思います。よろしくお願い致します。

(3) 閉会あいさつ

知 事

ありがとうございました。今日も大きなこれからの町づくりの方向性であるとか、これまで積み上げてこられた防災減災対策の更なる進化、そういうような形等においてご議論させていただいたというふうに思っております。即座に出来ないものもあるかもしれませんが、大変重要なお意見を賜りましたので、しっかり我々も国への要望も含めて、汗をかいていきたいと思っております。こういう形で今、人口減少でという中で、今日は主に安心安全の基盤みたいなところをお話町長からいただいたと思います。そういう基盤が無ければ安心して暮らしていただく、人々に暮らしていただくということも出来ないというふうに思いますので、大変重要な議論だったと思います。これからしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、本当に今日はどうもありがとうございました。